

# 上州武尊山行報告

【日時】 2月1日（土）～2月2日（日）

【天候】 曇り（ガス）ときどき雪

【行程】

1日 6:00 穴川発→11:00 川場スキー場駐車場→12:30 リフト山頂駅・登山開始  
→13:30 剣ヶ峰→15:00 幕営地（コル付近）

2日 4:30 起床→9:00 まで停滞→10:30 武尊山登頂→12:30 幕営地撤収→14:30 リフト山頂駅着→下山→温泉・食事・帰葉

【参加メンバー】 CL 佐藤健、小宮山、秋本（記録）

【内容】

初日は曇り、2日目は晴れるという天気予報で向かった上州武尊山ですが、やっと晴れたのは、下山時のリフトに到着したころでした。今まで、コンディションの良い雪山にばかり登っていたので、真っ白で方向のわからない山を歩くのは良い経験になりました。

雪不足の中、川場スキー場は雪がある数少ないスキー場ということで、11時についてころには駐車場は満車、リフトは行列でした。（リーダーが駐車場を予約しておいてくれたおかげで、リフト近くの立体駐車場に止められた。）

川場スキー場からリフトを使って登る上州武尊は、ココヘリ必携（レンタルあり）と、スキー場のカウンターで登山届を出すことが義務付けられており、登山者の安全（トラブル回避？）対策がとられています。リフトの係員も皆さん親切で登山者に優しいスキー場でした。

リフトを2つ乗り継いで、登山口へ到着。わかん・スノーシューを付けて登り始めます。今日曇り・明日好天の天気予報のためか、登り始めてすぐに会った下山中の2組を最後に誰にも会わず、風が強いのでトレースはほとんど消えていました。リーダーによると数日前に30cmほどの積雪があったということでフワフワの雪に足を取られながら標高を上げていきます。剣ヶ峰を超えてからはさらにトレースがなくなり視界も悪く、GPSに頼りながら進みました。風も強く、体は埋まり、幕営地に到着したときにはぐったり。樹林帯ではないので、幕営地は強風でした。ふわふわの雪でなんとか壁を作り（頑張って張ったテントは次のページ）、テントを張って、大量の雪をつけたままテントの中へ。最低限の整理をして、とりあえず乾杯。ビールはよく冷えていました。今回は、

幕営地まですぐ到着する（はずだった）ので、水は持参、軽量化を図らない、という方針だったため、お酒も食料も豊富でお腹いっぱい食べました。強風の幕営地の難点はトイレ。詳細は避けますが、小宮山さんによると、トイレの過酷さでは過去最高だったということでした。



8-9 時ごろ就寝。強風でテントがバタバタと鳴り、熟睡できないまま朝 4:30 起床。ラーメンの朝ごはんを食べて、7:00 ごろだったか、行動開始を試みましたが、強風・寒さ・視界不良でもう一度テントに戻る。靴を履いたままテントの中で待っていると、幾分明るくなり、風も弱まってきたので、9 時に再出発。視界は不良のままで、トレースは皆無。頂上直下は広めの稜線?になっているためさらにコースが不明瞭。雪庇がよくわからないので、ゴーグルを外して歩いているとまつ毛が凍って目が開きづらくなり、周囲は真っ白で目標地点もよく分からず、心が折れました。当初計画では、武尊山から、中ノ岳、家の串まで歩いてピストンの予定でしたが、出発が遅れたことと、コンディションも悪いので、頂上へ着いた後、中ノ岳へ向かう途中のくぼみでお茶タイムの後、引き返すことに。私が元気ないのがバレて、心配してくれた小宮山さんから暖かいお茶をいただき、そのうちにまつ毛も溶け、元気になりました。頂上に戻ると、好天予報に釣られた日帰りの登山者が続々と来ており、私たちが最初につけたトレースが、しっかりした道になっていました。みんな雪に飢えているので、雪があるところには天気が悪くても集まってきているようでした。視界も多少良好になり、テントを撤収して、往路に戻る。ゴールに近づくころ、霧が晴れて壮大な岩壁が見え始めました。





スキー場に戻ってきたところで、認定山岳看護師のビーコン試験直後だった小宮山さんによるビーコン探し大会。私と、佐藤さんがビーコンを埋めて隠し、小宮山さんが探す練習をしました。周囲には予想外に(?)真面目にビーコン

を持った登山者が多く、捜索現場は混乱しましたが（写真はビーコンを持っている別のパーティーに分け入る小宮山さん）、ビーコンの実践的な使い方が理解でき、新人の雪山訓練でも取り入れたほうが良いのではと思われる良い試みでした。



すごく良かった！というエピソードが書きづらい山行でしたが、文章にするほどでもない面白いこと（笑えたこと）は多く、雪山の経験値は稼げた気がします。また連れて行ってください。

なお、川場スキー場付近の『いこいの湯』は入湯料が破格で、ご飯も美味しく、お湯も良いのでオススメです。

以上